

2025 年 1 月 7 日

「チーム東北！」で現場力向上！企業間交流事例のご紹介

～日産自動車（いわき工場）・トヨタ自動車東日本（宮城大和工場）～

1. 復活する企業間交流



日産自動車・いわき工場 WEB サイトより

新型コロナウイルスの蔓延以前、JIPM の会員企業同士の交流は、設備保全や人材育成、マネジメントなど様々なテーマで活発に行われていた。JIPM が主催する研究会やイベントの場などが、出会いのきっかけとなり、企業の垣根を超えた交流を行う。いわゆる「ベンチマーキングの場」として、成長のための有効な場となっていた。

新型コロナウイルスにより、製造現場は多くの制限を強いられていたが、その制限の一つが、このような外部との「ベンチマーキング」の機会であった。ようやく製造現場の企業間交流が復活している。

「トヨタ自動車東日本株式会社 宮城大和工場」と「日産自動車株式会社 いわき工場」。この両工場は JIPM の東北地域の活動（改善事例発表大会¹⁾ や、東北地域保全研鑽会²⁾ など）をきっかけに 2024 年 12 月に交流がはじまった。いずれも乗用車の心臓部分「エンジン」などを生産し、切磋琢磨するライバルでもある。今回は 2024 年 12 月 12 日に日産自動車・いわき工場で開催された 2 社の交流会についてレポートする。

1) 改善事例発表大会の詳細は、公式サイト<<https://info-jipm.jp/event/kaizen/>>をご覧ください。

2) 東北地域保全研鑽会は、公式サイト<<https://info-jipm.jp/f/tohoku/>>をご覧ください。

2. 地道な活動が新ライン立上げにも貢献

冒頭は両工場の活動紹介。両工場とも組織の長となる工場長ほか、幹部も含め多くのメンバーが出席されている。すでに本気度が違う。

プログラム冒頭は主に製造部門・保全部門の幹部や管理者やキーマンが自工場の取組みを紹介。両社ともに強みを持った工場だけに、すでに互いに感銘や刺激を受けている様子が、質疑応答やディスカッションから感じ取れる。

プログラムは進み、日産自動車・いわき工場の見学。あらためて、いわき工場の特長である長年、地道に・愚直に・誠実に取り組まれた自主保全活動は大変尊いと感じる。東日本大震災などの危機や、モノづくりの環境変化もあるなかで、活動を継続してきたのは歴代の工場幹部・管理者の想いとマネジメント、そして何よりそれに応える現場の力にあると感じた。この現場力を養うための、育成の仕組みや環境づくりも素晴らしい。さらにはそのノウハウを活かし、技術部門と製造部門・保全部門が一体になって立ち上げた新ラインの紹介は、迫力があるものであった。現場ノウハウと生産・設備の技術、また DX などの新しい道具の融合が「生まれの良い設備づくり」に活かされ、新ラインの垂直立上げにも大きく貢献した。トヨタ自動車東日本・宮城大和工場のメンバーも感銘を受けたことは言うまでもない。



3. 「チーム東北！」で現場力向上！



プログラムの最後は製造部門と保全担当がチームに分かれ、より深いディスカッションとなる。いずれもレベルの高い工場ではあるが、お互いの強みと弱みだけでなく、組織体制や方針、そもそもの文化など、両工場の背景の違いなどもディスカッションした。語れば語るほど、時間は足りない。聞けば聞くほど、互いの「知りたい」はさらに深まっていく。どちらもその源泉は「現場力を高めたい」という欲求からだと感じるが、それが枯渇

しないのは両工場ともに「改善後は改善前」という大前提の文化を持っているからなのだろう。全国の各工場で行われる交流の場。チーム東北！での現場力向上の貢献できるよう、JIPM もその機会づくりの場を設けていきたい。

(記 JIPM 普及推進部)